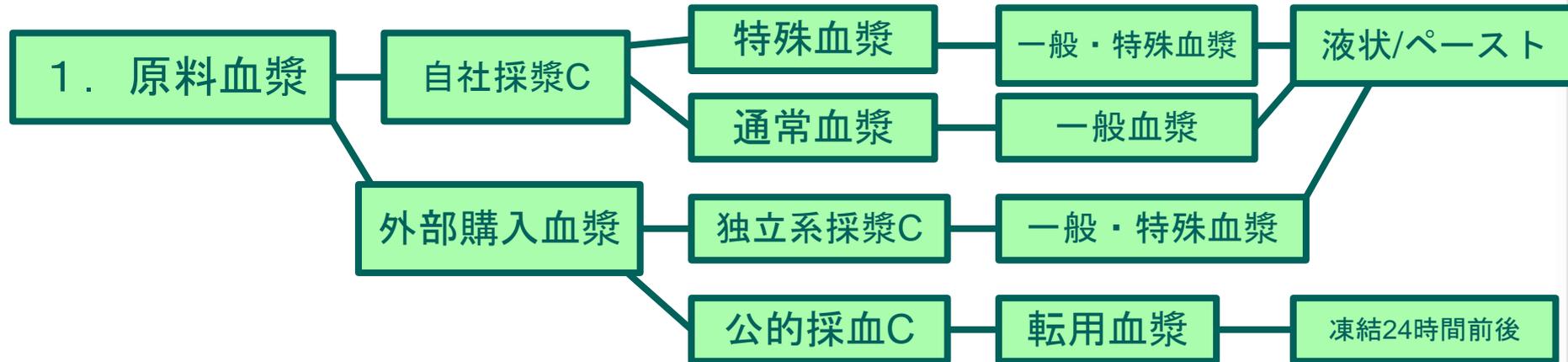


血漿分画製剤のコスト構造例



2. 分画技術によって収率が大きく異なる

例) IVIG ; 液状加熱、スルホ化、PEG、ph4、SD、イオン交換、フィルトレーション等

3. 連産性によってコストが異なる

連産性は各国の規制、承認条件によって異なる

- ① 開発コスト、薬価制度、疾病治療法、規制要件、
- ② 市場性（成長性、競合、販売管理費、その他）

米国、ドイツの民間採漿センター

	採漿量/回	ドイツ	アメリカ
		体重	
Volume	625ml		50-80kg
	650ml	50-60kg	
	750ml	60-79kg	70 to 80kg
	800ml		>80kg
	850ml	>80kg	
職員要件		医師	医師助手、看護師、 救急救命士、

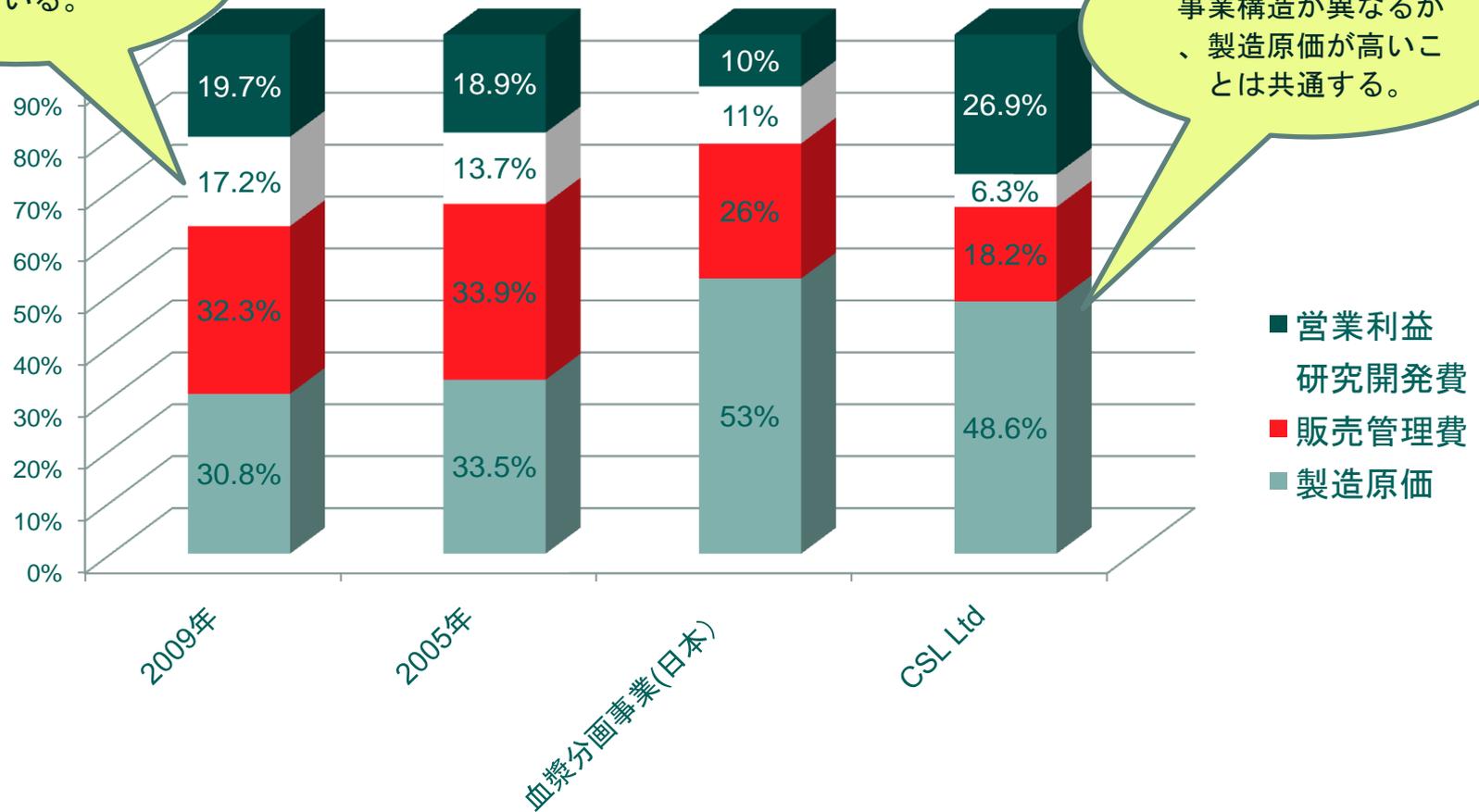
•Source:

•Germany Rill Bäk Guideline.

•USA ; From: FDA Memorandum titled "Volume Limits - Automated Collection of Source Plasma (11/4/92)"

血漿分画製剤事業のコスト構造

製造原価を抑えて、
研究開発投資を強化
している。



CSLは、日本企業と
事業構造が異なるが
、製造原価が高いこ
とは共通する。

• '09年, '05年: 医薬品事業 対象: 東証一部上場26社平均

• 血漿分画事業(日本): H15年3月「血漿分画製剤の製造体制の在り方に関する検討会」資料より抜粋

• CSL Ltd: '08/'09決算報告

血漿分画製剤の連産品構造例

